

「円高への総合的対応策」

～リスクに強靱な経済の構築を目指して～

(説明資料)

平成23年10月21日
内閣府

（注）本資料は、「円高への総合的対応策」の説明用の資料として、内閣府の責任においてわかりやすく作成したものであり、引用等については本文を参照ください。

目次

○「円高への総合的対応策」の基本的考え方	・・・ 1
○円高の進行とリスクの現状	・・・ 2
○主要施策	
1. 円高による「痛み」の緩和	
- 重点分野雇用創造事業の拡充	・・・ 6
- 雇用調整助成金の要件緩和	・・・ 7
- 中小企業金融の支援	・・・ 8
- 観光の支援	・・・ 9
2. リスクに負けない強靱な経済の構築	
- 立地補助金の拡充	・・・ 10
- 節電エコ補助金	・・・ 11
- 住宅エコポイントの再編・再開	・・・ 12
- オンリーワン企業の育成	・・・ 13
3. 円高メリットの徹底活用	・・・ 14
○本対応策の規模・効果	・・・ 15

「円高への総合的対応策」の基本的考え方

投資家のリスク回避姿勢の強まり

- ・ 欧州の債務危機の再燃
- ・ 米国の政府債務上限引上げ問題
- ・ 欧米経済の長期停滞懸念

本年夏以降、急速な円高が進行

8月19日 一時1ドル75円95銭の過去最高値を記録
企業の想定レート(大企業・製造業)
2011年度:81.15円(日銀短観9月調査)

景気下振れリスク

- ・ 円高に加え、欧米経済の停滞感の高まり
- ⇒
 - ・ 国民・企業の先行きへの不安
 - ⇒ 経済活動の委縮
 - ・ 円高とデフレの悪循環

産業空洞化リスク

- ・ 経済連携、電力供給制約等の課題がある中で、円高は立地競争力をさらに低下させるおそれ
- ⇒ 高付加価値分野の海外移転の加速
- ⇒ 国内雇用機会の喪失、地域経済の疲弊

5つの基本原則

①市場の安定の維持

- ・ 為替市場における断固たる措置
- ・ 適切かつ果敢な金融政策
- ・ 財政規律の維持、国債の信認確保

②円高や空洞化に対処し、成長を下支えする効果的な施策を厳選

- ・ オンリーワン企業等により、円高にもびくともしない強靱な経済の構築
- ・ 震災からの復興自体が大規模な需要追加であり、復興需要を早期発現

③円高による「痛み」を最小化する一方、メリットを最大化

- ・ 円高に直撃される企業・就業者の不安を解消
- ・ 円高メリットの徹底活用

④進捗管理により、成果を出す

- ・ 数値目標・期限による進捗管理
(各省副大臣級で取組)

⑤新たな成長に向けた取組

- ・ 新たな成長に向けた戦略の再強化

具体的対応策

1. 円高による「痛み」の緩和

- (1)雇用の創出・下支え等
- (2)円高で苦境に陥っている中小企業等への金融支援等の拡充
- (3)震災と円高のダブルパンチに苦しむ観光の支援
- (4)農林水産業の「痛み」の緩和
- (5)復興需要の早期発現

2. リスクに負けない強靱な経済の構築

- (1)立地補助金の拡充等による競争力の強化
- (2)省エネ・新エネ導入支援の強化による需要の拡大
- (3)世界オンリーワン企業・技術の育成
- (4)円高の中でも創業する起業家の強力な支援
- (5)世界市場への挑戦の支援
- (6)総合特区の推進等による国際競争力の強化
- (7)国内立地企業が直面する苦難への取組

3. 円高メリットの徹底活用

- (1)円高メリットの活用による海外M&A、資源確保
- (2)日本人学生の外国派遣と高度人材の受入れ
- (3)円高メリットの「見える化」の促進

対応策と第3次補正予算の実行等
⇒ 景気の下振れリスク最小化
産業空洞化阻止に全力

本対応策の効果

- 実質GDP押し上げ:0.5%程度
- 雇用創出・下支え:30万人程度